

社保田川病院の
診療科ラインナップ

内 科
消化器内科
呼吸器内科
循環器内科
糖尿病内分泌内科
外 科
消化器外科
乳腺外科
緩和ケア内科
放射線治療科
放射線診断科
病理診断科
脳神経外科
整形外科
産婦人科
耳鼻咽喉科
皮膚科
泌尿器科
形成外科
眼 科
歯科口腔外科
リハビリテーション科
麻 酔 科
老年内科
訪問診療
健康管理センター

屋上に発見!謎のカーブミラー



ひとちゅう新聞

社保田川病院とは何か?

カーブミラーの病院

ついに見せた真実!

田川市にある後藤寺の病院
と言えば社会保険田川病院
(335床)。地域がん診
療連携拠点病院や地域医療
支援病院等の認定を受けて
いる田川地域の基幹病院で
ある。ここ数年で3回もテ
レビで取り上げられること
になった謎のカーブミラー。
もはや『カーブミラーの病
院』との認知度の方がが高
いのではないかと語るのは、
同院の施設維持管理を担う
業務課長の宮崎氏。同氏に
各メディアで取り上げられ
た病院屋上に設置された謎
のカーブミラーの存在理由
を聞いた。「最初に取材が
来たのは、全国の番組で
あるナニコレ珍百景だった
その後、福岡のローカル番
組の『もち浜ストア』、そ
して『福岡くん』、いずれも
バラエティ番組だ。最初
に放送局から問い合わせが
あった時にはなぜうちがテ
レビに?と半信半疑だった
カーブミラーの謎は、私は
務めが長いので知っていま
したが、ほとんどの従業員
はなぜ屋上にあのカーブミ

カーブミラーの謎を語る!



社会保険田川病院
業務課 宮崎氏

ラーが設置されてい
るのかは知らないで
しょう。何度でも何度
もテレビに取り上げ
られていたので、も
しかすると既にご存
知かもしれないが、
あのカーブミラーが
設置された時は重要
な役割を果たしてい
たのです。それはボ
イラー室から出る煙
を確認するという役
割。今のボイラー室
は、新館の地下に設
置されているので、
もうその役目は終え
てしまったのですが、
撤去費の問題で、最
終的には旧館の屋上
に置きっぱなしに
なっているのです。
カーブミラーは、2
年間という短い使
命だったのですが、そ
の役割を果たした今
でも、ずっとここに
立ち続けているので

関係者から続々とコメン
トが寄せられる。

実は、その煙を確認
するというのは、設
備関係の法律で定め
られていることで、
異常な黒煙が出てな
いかをボイラー技士
が目視するために、
カーブミラーを使っ
ていました。しかし、
結局その2年間は順
調にボイラーが稼働
していたので、異常
な黒煙を検知するこ
とはありませんでし
た。つまり、このの
どかな景色をただ眺
めるだけにとどまっ
たというわけです。
本来カーブミラーの
役目としての黒煙を
検知するという仕事
を全うすることなく、
その使命を終えた
といった感じでした。
それで、一番最近取
材を受けたテレビ局
のディレクターさん
から「もう一度、そ
の果たすべきだった
役目をこのカーブミ
ラーに果たさせてあ

「テレビの取材は大変有
り難いことではあるの
ですが、カーブミラーば
かりなので、本当は田川
院のことをもっと地域の
皆さんに知って頂きたい
です。当院の医療のこと
はメディアに取り上げて
頂く機会はなかなかない
ので、もう自分たちでや
るしかないですね」と院
長の黒松は語る。

取材協力業務課長 宮
崎敬之院長 黒松肇取
材屋形知尋

院長も知らな
かった謎。



PR



院長 神崎 眞一

診療科 消化器科/内科
住 所 田川市伊田5005-5
電 話 0947-49-1152



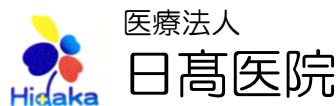
院長 加治 亮平

診療科 胃腸内科/呼吸器内科
内科
住 所 田川市上本町7-7
電 話 0947-44-0213

医療法人恭和会
後野医院

院長 後野 嘉宏

診療科 内科/消化器科/胃腸科
小児科
住 所 田川市伊田3867-1
電 話 0947-44-0399



院長 日高 敦弘

診療科 内科/外科/消化器/内科
住 所 田川郡川崎町田原552-3
電 話 0947-73-2500

柳瀬外科医院

院長 柳 瀬 晃

診療科 外科/皮膚科/泌尿器科
肛門科
住 所 田川郡添田町添田1409
電 話 0947-82-0279

地域課題に
向き合う

社保田川病院は、昭和二十五年六月に診療を開始。設立目的は、中小炭鉱の従業員及びその家族の福利厚生と、炭鉱医療施設の普及を目的とする政府施策一環であった。その後、エネルギー革命によって石炭は石油にとって代われ、石炭産業は急速に衰退。炭鉱が姿を消すとともに、協会本部の名称からも「炭鉱」の二文字が削除され、その後、平成二十八年に一般社団法人福岡県社会保険医療協会となり現在に至る。当院の設立趣意は、炭鉱産業を支える医療施設であったが、現在においてはその対象は広く地域に開かれたものに変化している。

令和二年四月に院長が交代し黒松 肇が就任。社会保険田川病院の地域における役割を再確認した(下図)。黒松は社会保険田川病院の使命を『地域の身近な存在として、健康と命を守り、安心を届けることである。そして、地域の活力を生み出すことである』と定義した。この使命を基にした経営目標を作成し、そのタイトルを経営コンセプトとして『人生100年を支える人中心の医療』(略して「ひとちゅう」)とした。これには、田川市郡地域の健康・医療・介護の課題に当院がどのように力になれるのかということが込められている。その前提にあるのは、地域のかかえる課題である。田川市郡で起こっている医療環境を取り巻く課題は、次のように凝縮して表現できる。

social insurance
TAGAWA HOSPITAL

人生100年を支える

人中心の医療

私達の使命は、

地域住民の身近な存在として、
健康と命を守り、安心を届けることである。
そして、地域の活力を生み出すことである。

「使命」を知る

『第1の課題』高齢化と人口減少

田川医療圏の人口減少率、高齢化率は福岡県内で最も高い。介護系の各種調査では、田川市郡の高齢者の生活状況は、運動、転倒、閉じこもり傾向、口腔機能、認知機能、うつ傾向等の指標で、他の地域に比べてリスク該当が高い傾向となっている。

『第2の課題』急性期医療ニーズの減少と流出

田川地域の急性期の医療ニーズは既に減少の局面に転じている。実際に新入院患者数も年々減少し、様々な努力を重ねるも大幅な改善の兆しはない。人口減少によりニーズそのものが減ってきているのである。

『第3の課題』回復期、在宅医療機能の不足

公的データによると田川市郡のリハビリテーション、在宅医療、そして、医療・介護連携に関わる医療行為が地域として少なく、医療と地域を繋ぐ取り組みに課題があることがわかった。

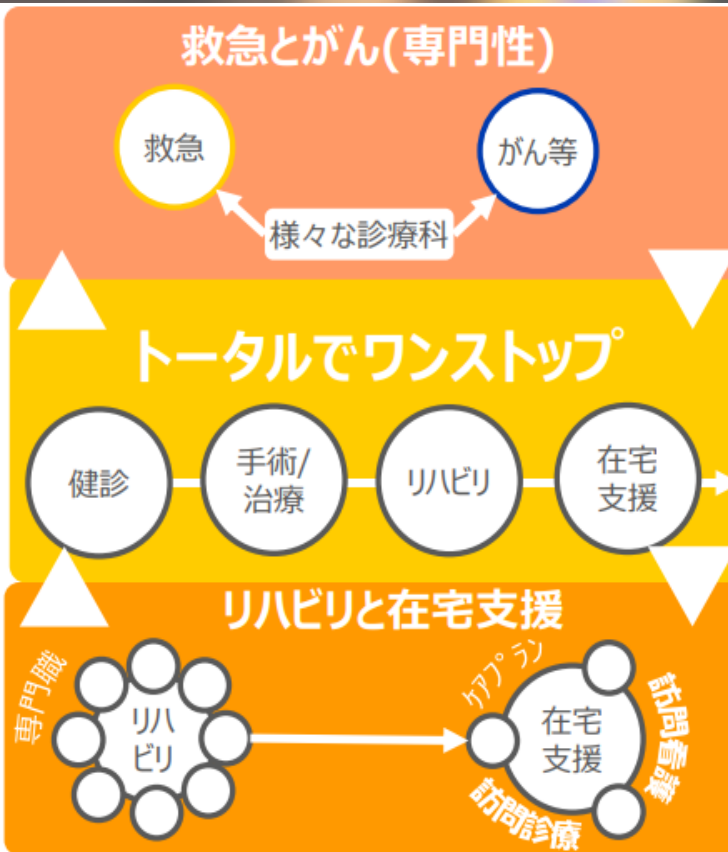
『第4の課題』健診・予防医療の空白地帯

地域に健診を行う施設が少なく、予防医療が行き届いていないことである。

これらの課題に対して、当院が発揮できる機能は何かを考え、これからの当院の価値をより一層高めていくように、経営ビジョン『ひとちゅう』を定めた。創刊号では、まず、地域の皆さまに社保田川病院がいったいどんな病院なのかを知って頂きたいという思いから、下図のように当院全体で持つ機能を紹介させて頂きたい。(談) 病院長 黒松 肇

病院機能

健康管理センター 企業健診・住民健診
ハケアユニット病棟 救急・術後
急性期病棟 手術等の後に継続して、 治療を行う病棟
回復期 リハビリテーション病棟 集中的にリハビリを行う病棟
地域包括ケア病棟 在宅復帰へ向けて日常生活機能の 維持向上を図る病棟
在宅・訪問看護・ケアセンター 訪問診療、訪問看護を行う



診療科

内科 (消化器・呼吸器・循環器・糖尿病)
外科 (消化器・乳腺)
緩和ケア内科
放射線治療科
放射線診断科
病理診断科
脳神経外科
整形外科
産婦人科
耳鼻咽喉科
皮膚科
泌尿器科
形成外科
眼科
歯科 口腔外科
リハビリテーション科
麻酔科
老年内科
訪問診療
健康管理センター

田川病院の機能